

ご挨拶

新型コロナウイルスの猛威が日本中を翻弄しております。皆さまいかがお過ごしでしょうか。先のニュースレター第5号をお届けして、早いもので2か月が経過します。その間、少し明るいニュースとしてワクチン接種のことがメディアを賑わせていますが、行きたるには今少し時間が必要なようです。そんな中、新たに非常事態宣言が出された都道府県があり、さらに東京や大阪、そして兵庫も延長されました。この現状を鑑みて、今年の第三七回日本篆刻展の展観・受賞式等を中心せざるを得ないと判断しました。既に審査は行われ、各受賞者が発表されております。昨年同様に展覧会図録を刊行し、誌上展方式で三七回展が行われたいたします。ご受賞の皆様には喜びの場を提供できなかったこと、洵に残念なことですが、ここに改めてお祝いの意を表したいと思います。日本だけでなく世界中の深刻な様子が報道されるたびに、ここはひとつ我慢と、思わないわけにはいきません。会員の皆様にはくれぐれも日々の生活に注意されて、感染されないよう願っております。

しかしながら、茨城県古河市の篆刻美術館では例年どおり本協会の役員展が開催される見通しです。先般は中国西冷印社展に会員参加が八十名を越えました。今また、九月に開催される山東省陳介祺研究会主催の篆刻展に作品がほとんど集まっています。皆様は中国西冷印社展に会員参加が八十名を越えました。今また、九月に開催される山東省陳介祺研究会主催の篆刻展に作品がほとんど集まっています。皆様の意気軒高な様子を心強く思っております。

さて今しばらく、ステイホームをエンジョイホームに代えて、大いに篆刻に励みたいと思います。このニュースレターが少しでもお役に立てれば幸いです。

梅舒適 コレクション 受贈記念展報告

理事 稲垣華扇

令和三年四月二十四日(土)、兵庫県立美術館に於いて「額川コレクション・梅舒適コレクション 受贈記念展」の開幕式が開催されました。式典には額川徳助氏のご子息、梅舒適先生の奥様、兵庫県立美術館館長の蓑豊氏、兵庫県知事の井戸敏三氏らが出席、ご挨拶されました。本協会からは尾崎蒼石会長、井谷五雲理事長、酒居石荘副理事長らが出席。

この展覧会は大坂の実業家、額川徳助氏が日本美術を中心に蒐集した約250点の美術品、また日本篆刻家協会初代理事長、梅舒適先生が約六十年の歳月をかけて蒐集した中国書画・文房具・典籍および梅先生ご自身の書画篆刻作品がご家族より寄贈されたことを記念したものです。展覧会場には呉昌碩の書画が約二十点、さらに梅先生の刻された印材も展示されました。中でも日展における内閣総理大臣賞を受賞された作品の印石に参観者の目が集中しました。梅先生の篆刻作品を囲んで奥様と歓談され、懐かしく眺められる協会の先生方のお姿が印象的でした。展覧会は七月四日(日)まで。

理事長 井谷五雲



右から 井谷理事長・尾崎会長・稲田和子梅先生令夫人・蓑豊館長・酒居副理事長▷

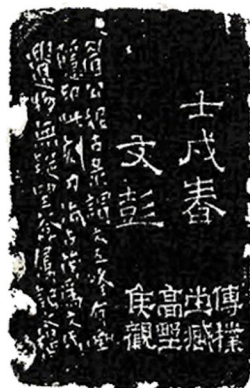
「一日之跡」とは、今日一日の足跡のこと。「跡」は「迹」と同じ「あしあと」「あゆみ」「行い」「功績」などの意味があり、自分が残した今日一日の足跡、つまりその人の進歩のあとのことです。この語の出典は『唐朝名画録』です。私見ですが、人生において人ほどのような痕跡を残すのでしょうか？ 日々過ぎ去っていく中で何か一つの痕跡でも残したい。残すべきであると自戒した印人達がこの印文を刻していったのではないかと考えています。

さて、私が調べた中では、①の印が最も古くに思います。刻者は梁裘（？ 一六四四）、字は千秋、何雪漁（？ 一六二六）の弟子とされます。本題から少しズレますが、ここに文三橋（一四九八―一五七三）の作とされる有名な印ア「画隠」があります。この印は面々印であり、裏面には梁裘の刀でイ「東山艸堂珍玩」（一五九六年作）が刻されています。（現在上海博物館蔵）

さて、ここにあげた②③の「一日之跡」は鄧石如（一七四三―一八〇五）の刻です。②は明らかに①梁裘の摹刻としてよいでしょう。①よりも「日」「跡」などは下辺に接しそうで、「日」などは辺縁から外に飛び出しそうです。辺縁は四辺共に細く文字本体だけでアピールした印のように思われます。③はそれに比して辺縁を太めにしてあります。そして「一日」に曲線を加え、「之」は直線的表現とすることにより、印に締まりが出ています。鄧石如の芸術性を加味した①の仿刻ともいえる印です。

④⑤⑥は呉讓之（一七九九―一八七〇）の刻です。呉はとことん鄧石如を追従した作家であることが世に知られています。④⑤は鄧石如の③の作に二ヶ所アクセントを入れて、ある意味自己主張をしたものです。⑥は④⑤の発展バージョンとして曲線での表現にチャレンジしたのかもしれませんが、あと⑦黄土陵（一八四九―一九〇八）、⑧王大炘（一八六九―一九二四）が鄧石如の②を摹刻していますが、同文で⑨陳衡恪（一八七六―一九二三）⑩何墨（一八九五―？）は、①⑧とは少々異なった字形で刻しています。この⑨⑩は「跡」字足部の口が①⑧と異なるところがポイントです。『説文』に従ったのが、⑨⑩です。

①⑩の印を見ていると、この「一日之跡」の言葉を愛した人々が少しずつ個人の意見を入れた摹刻は、名曲のカバーにも似て、永久に私達の心に生き続けていくように思います。そんな事を考えながら(1)・(2)を刻してみました。



▷ア画隠（印影・印面）

▷イ東山艸堂珍玩（印影・印面）／側款拓

—最後に「足」について—

「足」・「正」・「疋」の三字は、もとは一字であるということを『説文解字注』（段玉裁）などを参考にして加藤常賢博士などが解説しています。白川静博士はさらに突っ込んで、「足」の口は膝の関節の形、甲骨文では「正」と同形に書かれ、「正」は一と止に従い、この甲骨の口は城郭で囲まれている邑であるとし、甲骨文では「正」・「足」・「疋」の形が近く、そのため文が誤読されているとされています。どちらにせよ、「足」の口は膝の関節でしょう。そこで「足」の篆書を先人がどのように書いているかを見ますと、以下のようになっています。『説文』から考え、城郭であろうが、膝であろうが上部は口が正しく口は不可とするのが

正道でしょうが、私などは時々口を書き

ます。先師梅舒適先生はママ口をお書きになられました。もちろん『説文』のこと

は百も承知。梅先生が呉昌碩の芸術観を神の如く崇拜されたことは、呉讓之と鄧石如の如くでありました。このことを知った上

で、読者の皆様は「足」の篆書を書いていただければと思います。



① 梁表刻



⑦ 黄土陵刻



② 鄧石如刻



⑧ 王大圻刻



③ 鄧石如刻



⑨ 陳衝恪刻



④ 吳讓之刻



⑩ 何墨刻



⑤ 吳讓之刻

(1)



⑥ 吳讓之刻

(2)



  人之足也在下从止口凡足之屬皆从足 <small>徐鍇曰口象股脛之形即玉切</small>	  莫友芝	  吳大澂
  楊沂孫	  徐三庚	  吳昌碩
  鄧石如	  左運奎	  田潛
  吳讓之	  仰嘉祥	  王纘

第三十七回日本篆刻展審査報告

審査担当 松本雅至

第三十七回日本篆刻展」の審査会が四月四日、兵庫県立美術館王子分館（原田の森ギャラリー）で行われた。全国から寄せられた参与、評議員、常任委員、委員、会員、公募の作品総数五二三点を対象に十二名の審査員が鑑別審査にあたった。本来なら約二十名の審査員で行うところであるが、コロナ禍の影響で密を避けたいこともあり、遠方の審査員には無理な要請を控えることとした。慎重かつ厳正な審査の結果、参与から顧問賞一点、会長賞一点、評議員から梅舒適賞三点、常任委員から日本篆刻展大賞一点、準大賞五点、優秀賞一点、委員から奨励賞三九点、会員から特選二二点、秀作五一点、公募から原田の森ギャラリー館長賞一点、会員推薦賞四五点が選ばれた。また、委員奨励賞から寄託賞二点、会員特選から寄託賞四点が選出された。さらに、併催の学生展は高校の部が三六点、小学生・中学生の部が一九四点の応募であった。

●審査員

理事長 井谷五雲（審査委員長）

常任顧問 山下方亭

会長 尾崎蒼石

副理事長 喜多方邑 酒居石莊 小 朴圃

代表理事 多田龍淵 中島春緑 平田蘭石 真鍋井蛙

代表理事 伊藤雅夫 黒田玉洲 黄 平齋 渡邊和琴

常務理事 伊佐治祥雲 梶川久美子 田中修文 御手洗眉山

■日本篆刻家協会顧問賞・会長賞選考委員

常任顧問・会長・理事長 三名

■梅舒適賞選考委員

常任顧問・会長・理事長・副理事長 十名

■大賞選考委員（大賞・準大賞・優秀賞）

常任顧問・会長・理事長・副理事長・代表理事 十四名

■学生展選考委員

理事長・常務理事 五名

主な受賞者（敬称略）

- ◆日本篆刻家協会顧問賞（参与） …… 田中瑞峰
- ◆日本篆刻家協会会長賞（参与） …… 吉田宗里
- ◆梅舒適賞（評議員） …… 寺田和仁 巽 聖石 中本管城
- ◆日本篆刻展大賞（常任委員） …… 中森紫香
- ◆日本篆刻展準大賞（常任委員） …… 澁谷春壽 下倉暹水 武田黎秀
高橋忠義 堂守唯文
- ◆日本篆刻展優秀賞（常任委員） …… 金子静巴 安西幸恵 小松五岳
荒瀬昌園 池田翠苑 大江清風
三浦英子 清水蒼龍 近藤悠峰
平 富耀 永井恵子 山田香代子
石崎魯行 木元美英 松岡泰南
- ◆最優秀賞（学生展） …… 市原綾女
- ◆優秀賞（学生展） …… 大田 潤 城下 叶 河合咲希
大野綾華 川瀬愛美 田岡由起子
尾崎菜美 小南実鈴 松川皆愛
前川恵理奈

■展覧会のご案内

穎川コレクション／梅舒適コレクション受贈記念展

【春季展示】四月二十四日（土）～五月三十日（日）

【夏季展示】六月一日（火）～七月四日（日） 兵庫県立美術館

第三十九回六響会展 八月十八日（水）～二十二日（日）京都文化博物館

第二十四回齊平展 九月十一日（土）～十二日（日）

大阪産業創造館三階マーケットプラザ

第三十六回畦石舎展 十月二日（土）～三日（日）日図デザイン博物館

第六十七回全関西美術展 令和四年二月五日（木）～十五日（火）大阪市立美術館

※本年度の社中展等、開催予定がございましたら事務所までご連絡ください。